

令和7年度病害虫発生予察情報 発生予報第11号(10月)

令和7年10月15日

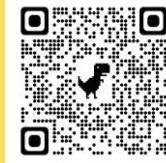
発表：福島県病害虫防除所

【注意が必要な病害虫】

野菜 花き	■ 野菜、花き共通：ハスモンヨトウ -②
----------	----------------------

※ 上記の表に記載された病害虫は、下記の①～③に該当します。

- 注) ①現状において、注意報レベルの防除を要すると判断された病害虫
 ②「1 主な病害虫の発生予報」のうち、予察調査の結果、発生時期が「やや早い」、発生量が「やや多い」と予測された病害虫の中で特に懸念される病害虫
 ③「1 主な病害虫の発生予報」以外で、調査の結果、県全域的に発生が多く、問題になると判断した病害虫



病害虫防除所
HPは
←こちらから



病害虫に関する
防除対策の
ページは
←こちらから

1 主な病害虫の発生予報

(1) 野菜花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった(±)。	多発すると防除が困難になるので、発生初期から薬剤防除を徹底する。
	土壌病害 (萎黄病、炭疽病)	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった(±)。	発病株及び発病が疑われる株は、見つけしだい抜き取り、ほ場外に持ち出すなど適切に処分する。
	アブラムシ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった(±)。	低密度時から薬剤防除を実施する。
	ハダニ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年よりやや低かった(—)。 天候予報(仙台管区気象台 10月2日発表)によると、期間のはじめは気温がかなり高くなると予想されている(+)	低密度時から薬剤防除を実施する。 抵抗性の発達が懸念されるので、殺ダニ剤の選択には注意する。 カブリダニ製剤を放飼している場合は、天敵に影響の小さい薬剤を選択する。
	コナジラミ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった(±)。	低密度時から薬剤防除を実施する。
野菜、花き共通	ハスモンヨトウ	全 域	—	やや多い	発生ほ場割合は平年並であった(±)。 天候予報によると、期間のはじめは気温がかなり高くなると予想されている(+)	成虫の発生と産卵は、11月上旬頃まで続くので、発生状況をよく観察する。 防除が遅れると被害が大きくなるので発生初期に薬剤防除を徹底する。

注) 予報の根拠の中で(+)は多発要因、(—)は少発要因、(±)は平年並要因であることを示す。